

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 40 号	2004年11月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	-----------------------------------------------

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月29日（金）稲こぎ及び乾燥
- 10月31日（日）小野田ハイキングクラブ 昭和山、男岳、ピオトープ見学
- 10月31日（日）宇部ネイチャークラブ見学
- 10月31日（日）夕刻 初摺り 善和 末永さん方にて
- 11月 7日（日）竹炭用材料製作、湿地帯のスゲ草除草（耕運機ほか草刈り機による）須賀河内川魚棲息域の整備、水田の厩肥散布、ミズキンバイの勉強会。19名の参加でした。
- 11月13日（土）池のイグサの間引き、土手の駒繫（こまつなぎ）の抜き取り草原と駐車場の草刈り、湿地帯橋ゲタの運搬等大変ご苦労御おかけしました。19名の参加でした。
- 11月13日（土）里山自然観察隊「里山のくらし」
藁縄の織い方、竹馬つくりと試走、竹とんぼ、紙鉄砲つくり保護者、指導者も一緒になって苦労してつくりました。隊員16名、保護者11名、指導者10名でした。
- 11月15日（月）やまぐち環境パートナーシップ広域会議 今井会長、藤田副会長出席
- 11月20日～21日 二俣瀬ふるさとまつり

2. 今後の予定（事務局 記）

- 見学者
- 11月27日（土）宇部地区健康福祉センター主催 厚東川、有帆川。厚狭川環境学習会
今井会長、田村会員、美濃和会員にて説明案内をされます。
- 行事
- 12月3日（金）餅つき準備（洗米、ダイガラ運搬、会場作り）
- 12月4日（土）収穫祭 part-1 餅つき
- 12月18日（土）竹炭窯火入れ、収穫祭 part-2 蓮堀、忘年会

3. ビオトープ関連（ピオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

セイタカアワダチソウとアキノキリンソウ

11月の半ばを過ぎても、まだキク科の花たちは今を盛りと花を咲かせています。今回は、外来植物として悪名高いセイタカアワダチソウとその同属のアキノキリンソウをご紹介します。

セイタカアワダチソウは、あまたある帰化植物の中でも、だれ知らぬものがないくらいに一番有名になってしまった北アメリカ原産の多年草です。和名の「背高泡立草」の「泡立ち」とは、花の咲き方が、酒の発酵する時の泡立ちに似ているからだそうですが、酒の発酵のようすなど見たことのない私にとっては、いまひとつ想像がつかえません。日本に最初に渡来したのは明治時代ですが、戦後になってから急速に全国に拡がりました。炭坑の閉山があいついだ頃に急増したことから、「閉山草」とも呼ばれているそうです。宇部炭田の閉山は1960年代ということですが、宇部地方でもこの草が広まっていったのはそのころだったのでしょうか。一時は、花粉症の原因植物と疑われ、また根から出す物質で他の植物が生えるのを抑えて在来植物を圧倒するのではないかと、思われたために、全くの悪役扱いとなってしまいました。ピオトープでも、見つけしだい抜かれるという立場ですが、抜いても抜いても生えてくるそのしたたかさは、ある種のたくましさを感じざるを得ません。

今回、花のスケッチをしてみて、改めて思ったのはその花の数の多さです。4mmほどの小さい花がひとつの花穂に無数に着き、一個の花自体がたくさんの種子をつけるのですから、種子の生産量としては無限大に近いわけです。それがタンポポのように風に運ばれてばら撒かれるのですから、ちょっとした裸地があれば、セイタカアワダチソウがそこで芽生えるのは何の不思議もないわけです。

今年は9月の台風で、さしものセイタカアワダチソウも葉先が枯れたために、例年より花の時期が2週間ほど遅いようです。背の低い状態で咲いているセイタカアワダチソウが多いのも、いつもの秋とはちょっと違った今年の特徴です。

アキノキリンソウはれっきとした日本在来の野草で、セイタカアワダチソウと同属とはとても見えませんが、よく観察してみると花穂のつくりはそっくりです。違うのは花の大きさと数、花穂全体のかたちです。セイタカアワダチソウは花穂全体が三角形になりますが、アキノキリンソウは円柱状です。花色もきれいなレモンイエローで、チョコレート色の茎、アクセントのように入る小葉の緑色とのマッチングが絶妙で、しみじみ眺めてみるとたいへんに美しい花です。大きくなってもせいぜい50cm ほどですから、山野草としての愛好者も多いこともうなづけます。和名は、秋に咲くキリンソウからで、花の美しさをベンケイソウ科のキリンソウにたとえたものと言われています。ピオトープでは、道の斜面の山側に群落をつくっています。よく日が当たって少し乾き気味で、夏までに一度刈りこまれた場所を好むようです。

アキノキリンソウは、昔から万能な薬草として知られており、花の時期に地上部を採り、水洗いして日干しし、煎じてかぜの頭痛やのどのはれの痛み、はれものの解毒に利用されます。食用としても、若苗の葉を揚げ物にしたり、塩ゆでして水でさらし、おひたしやごまあえなどになるそうです。そういう意味でも、「食えない」セイタカアワダチソウは部が悪いですね。



セイタカアワダチソウ (キク科)



アキノキリンソウ (キク科)

4. ピオトープ関連 (会員の声)

10月中旬、二俣瀬小学校の跡地で「あさぎまだら」を見つけました。黄色いつわぶきの花の上をひいらりひらりと二匹の蝶が優雅に飛んでいました。あさぎまだらは長距離移動をする蝶として有名で、国内でも1000km越える移動例が確認されているそうです。

この二俣瀬のあさぎまだらはどこからきたのでしょうか？1000kmとんできたのでしょうか？ここから1000kmというと？長い旅をして、二俣瀬でお休みしているのでしょうか？

森には癒す力があるそうです。インターネットを見てみると「森林浴は、温泉浴や海水浴、日光浴などと同じで自然浴の一つです。森林浴は森林内散策・歩行運動をすることによって、森林空間内の空気を身体と五感に感じる空気浴のことです。森林内の環境は、静寂で温かな状態、空気の湿度、温度、気

流、気圧、そしてマイナスイオン、プラスイオン、フィトンチッドなどの化学成分が人間の体を刺激して様々な生理作用を起こさせ、安定した体とリズムカルな神経作用を作り出します。森林内での運動は、全身の血液循環が高まり腹腔内の神経節が刺激されて自律神経のバランスが整えられ、体力・心機能・消化機能増強と新陳代謝を高め、大脳の機能を安定させ、疲労回復にも有効です。（森を考える～森林浴～：林道研究室 大村裕治）」とあります。きっとあさぎまだらも長い旅の疲れを二俣瀬の静かで小さな森で癒していたのでしょう。

北村会員さんからバトンタッチされて、何を書けばいいのか迷いました。この会の活動について、会員の方々の想いが少しずつ違ってきているのかなあとも思います。私はここに来ると田舎にかえってきたような気がします。それは蛍が飛んでいるとか、キキョウが咲いているとかだけでなく、懐かしいような不思議な安堵感。森の癒しの力が化学成分なら、里山の癒しの力は二俣瀬の人の温かい笑顔かもしれません。環境保護とか、自然教育とか、絶滅危惧種を守るとか、子どもたちに伝えていかなければならないことはたくさんあるのでしょうけど、この小さな森と里山の人々の笑顔に癒されながら、私は草刈りに行っているのかもしれませんが。こんな私はひょっとしてあさぎまだら???



次回は 松本 フデ子 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

10月30日 自然がいっぱいで、空気もおいしくきれいで冷たい川もあり、ここは楽園です。水車もありとっても気持ち良いです。めずらしいカワセミという夏鳥もいます。ここが好きになりました。 無記名

10月30日 私はビオトープを始めて見ました。つくるのにだいぶ苦労したんだなと思いました。私はすごいなあとと思いました。また、きたいなっと思いました。次はカワセミが見たいなと思いました。 無記名

10月30日 私はとても良いところだと思いましたすごく水がきれいで、メダカもたくさんいました。それほどすごく清潔なんだなと思いました！！ 無記名

10月31日 小野田ハイキングクラブ13名

11月3日 宇部市中村3丁目6-17 下道利治

11月24日 ビオトープ最高！！タガメ（メダカの字の間違いかタイコウチではないかと思う）見つけたぜ！！又来たいな 以上母さんと2名でした。By 蝶野美和子。和子

6. 会よりの連絡事項

(1)年に一度の餅つきです。今年に入って一度も参加されてない方もぜひ参加してください。

7. 編集後記

穏やかな秋晴れの日が続くと、今年の災害が続いた事も 一時 忘れそうになります。しかし未だ寒さに向かうなか、避難所暮らしの方も 多く居られます。大きい山が崩れ落ち、川の水が溢れ 部落が水の下になって行く様を見ると、自然の力の大きさには、人間の力では どうすることも出来ないと思われま

す。そんな内、二俣瀬ビオトープのもち米も 影響を受け、今年は去年に比べて 収穫が少ないようです。それでも有り難い事に、今年も又 餅つきの日が、近づいています。張り切って、其の準備 そして当日それから搗きたてのお餅を食べる・・・、体に新たに元気が蘇って来るのでは無いでしょうか。

そして、餅米だけでなく、足元には クレソン よもぎ セリ 椎茸など、周りには 沢山の自然の恵みが、有ります。増えすぎたスゲを、耕耘機で取り除くと言う荒っぽい作業も、掘り起こした土の中から、今まで眠っていた種が目覚めると言うことが、有るそうです。これから、どんな芽が出てくるのか、又それが 絶滅危惧種かも知れないと言う期待も出来ます。幸い、それが判る会員の方も、いらっしゃるので、教えて貰える楽しみも有ります。

やはり、身边には 絶滅する事無く、多くの草花 鳥や水中動物、又遠くには獣など、賑やかに在って欲しいものです。

(大村 美智子 記)